

副官

村松

吉

参事官

發付

十月八日

年 月 日起案

大臣

次官

磯山

電報案

明治四十年十一月

白軍大佐

海軍

1212

佐林

八代大付北

去上白船急送船於 Blucher 船内
 起るる也事奉に對し高志海軍名
 多しと深層なる情に對し海軍大官
 一日

副官

村松

吉川

參事官

年 月 日起案

發付物
十月八日

大臣

次官

村松

明治四十年十一月

海軍大臣

官房第四五七號

海軍

鐵鎮第九四七

明治四十年五月五日

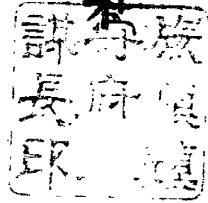
於順鎮守府參謀長瀧川具和

海軍省軍務局長武島野島殿

人員

軍艦全副座懸查問件

軍艦全副座懸查問件
為在座係(白帆)候運次四
等船習不施發射、施行、兼、中、向、項、入、船、事、發、上、滯、差、未、至
懸查問會後施行、深事、相成、居、深、未、右、所、策、如、相、成
查此段及所通知置隊也



四二二號

(終)

回覽後軍務局庚

大臣 奏

次官

旅費簿第一四八號三

明治四十年十一月二十二日

村格

海軍大臣男爵齋藤 實殿

海軍大臣男爵齋藤 實殿

局員

軍艦金剛坐礁之件

軍務局

軍艦金剛東長山列島於ニ坐礁

ノ件不取敢電報致置候處別紙今艦長

機務部

提出ノ報告書相添

第三部長

別紙 六葉添

水務部

坂本

新報

大

終

軍務部長

各

班

各

班

班

班

班

班

班

班

班

次長

海

軍

司令官

参謀長

司令官

明治四十年十一月二十日



第六一號

明治四十年十一月二十日

金剛艦長 山本竹三郎



旅順鎮守府司令長官 野島橋本正明 殿

金剛坐礁事件

明治四十年十一月十八日本艦砲台射撃、爲ノ裏長山列島ノ
 エストベイ湾碇泊中午前十一時五十八分射撃用標的及航
 路浮標設置、爲ノ出港航跡通(別紙甲号)ノ通リ航行シ
 午後一時五十二分標的ヲ設置シ今三時三十二分A航路浮標ヲ
 投下ス今三時四十六分B航路浮標ヲ投下終リ第三浮標ヲ投下
 センガ爲メ行進シ原速八節トス今三時五十分半速六節次ニ微速
 四節續テ停止今三時五十五分微速四節次ニ半速六節ニテB
 航路ヲ一線見ツ、針路南八十度ニ航行シ將ニ第三浮標ヲ投
 下ス

下セントスルヤ今三時三分依然船体異様ノ激震ヲ覺エ未知暗
 山ニ擱望シ船体ニ大舷九度ニ傾斜ス依テ直キ汽機ヲ停止シ
 防水扉閉鎖ヲ令シ防水蓆ヲ準備スルト同時ニ艦底漏水ノ如何
 ヲ檢セシモ何等ノ異状アリ漏水ニ次テ直キ總端舟ヲ卸ロシ潜水機
 ヲ以テ外底ノ損害及膠着ノ状況ヲ調査セシモノ一才ニ於テハ艦周圍及附
 近ノ海深ヲ檢測セシメタル別圖乙号ノ如キ水深ヲ得タリ而シテ當
 時海上静穩北西ノ微風アリ潮流ハ微弱ニシテ東オシ流ル且ツ恰モ最
 干潮時ナリシテ以テ滿潮時午後八時三十分六十呎内外ノ増潮アル可
 キヲ以テ豫備汽罐ノ罐水ヲ排去シ又ストリームモエヨル概去ノ用意ヲ
 ナシ滿潮ニ乘ジ機ヲト相俟テ後オシ曳卸コシノ準備ヲナシワ、ヤノ
 際午後四時船体傾斜大舷四度ニ減ジ獨漸々減少シテ今四時三十分
 全ク傾斜ナキニ到ル而テ風オト潮流トハ母ニ艦尾ヲ壓シワ、アリシガ
 潮滿ソルニ從ヒ船体漸次前方ニ移動セラルモノ、如ク其前數回ノ

震動アリシモ各五時頃より全ク微動ヲモ感ゼザルニ到ル時ニ水深ヲ驗
 シソニアリシモノ艦周全部淺所ナキヲ報告ナセリ依テ或ハ自然
 離礁セシヤノ疑ヲ生ゼシナリ尚委シク水深ヲ調査セシメ愈離礁疑ナ
 キニ到ラタリテ午後五時四十分最小微速前進ヲ試シニ容易ニ
 前進セリ依テ各五時四十分投錨及泊終夜漏水ヲ檢査ラサシ
 ナリシガ何等ノ異状ナシ

聖十九日早朝ヨリ潜水機ヲ以テ外底毀損ノ状況ヲ檢査セリ
 又航海長以下数名ヲ將校ラシテ暗岩ノ位置ヲ檢測セシムリ
 艦外底損害ノ箇所左ノ如シ

- 一、フォールスキール、前部長サ約八呎木部及銅板磨損 一ヶ所
- 一、右舷ビルギキール、前部長約三呎厚三吋磨損 一ヶ所
- 一、右舷ビルギキール、中部長サ約九呎銅板磨損長約三呎
- 一、木部割脱シ約六吋、緩ク生ズ 一ヶ所

一左舷ビルクキ一此長サ約ハ吹銅板磨損ス 一ヶ所

一右舷ビルクキ一此前端ヨリ右サ約三十吹銅板諸ヶ剥脱ス

暗岩ノ位置左ノ如シ

小長山島南端四百十三呎頂ハ南ハ七十七度東

該暗岩ヨリ小長山島中端二百〇二呎山頂ハ北四十五度東

Utini (Black) Rock 頂ハ北二十四度西

巨離七鏈

牙位ハ磁針一偏差五度五分西ニ依ル

該暗岩ノ最深部ハ一尋半ニシテ其周圍ヲ測深スルニ約三十米

突附近ニ到ルモ直サニ水深七尋内外ヲ示シ頗ル尖角ナル孤立

岩ト認ム

右報告ス

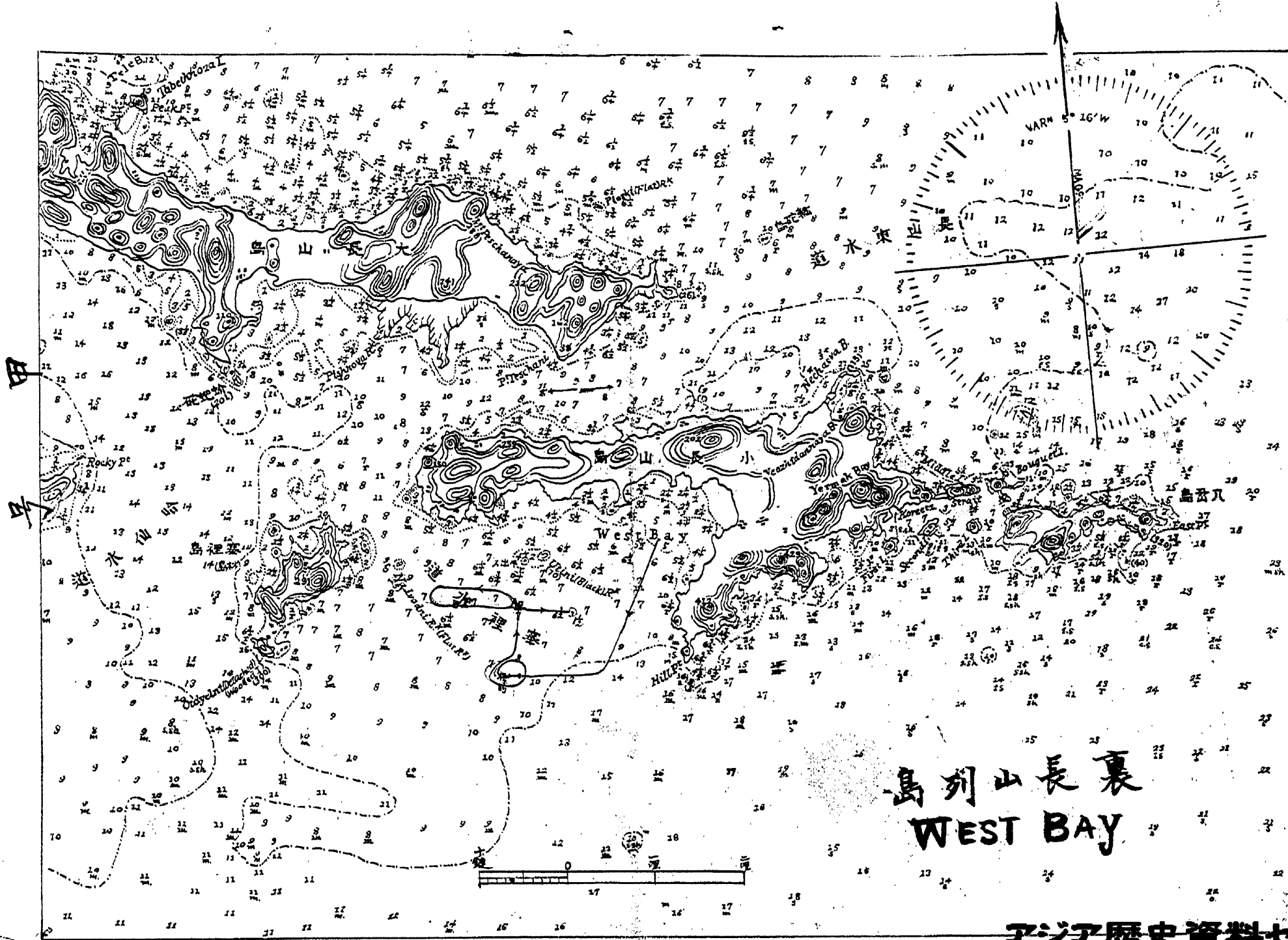
了

(別紙甲ウエトヘシ海番寫シ一葉乙暗岩附近海深畧
番一葉丙艦底損傷概面一葉ヲ添フ)

海

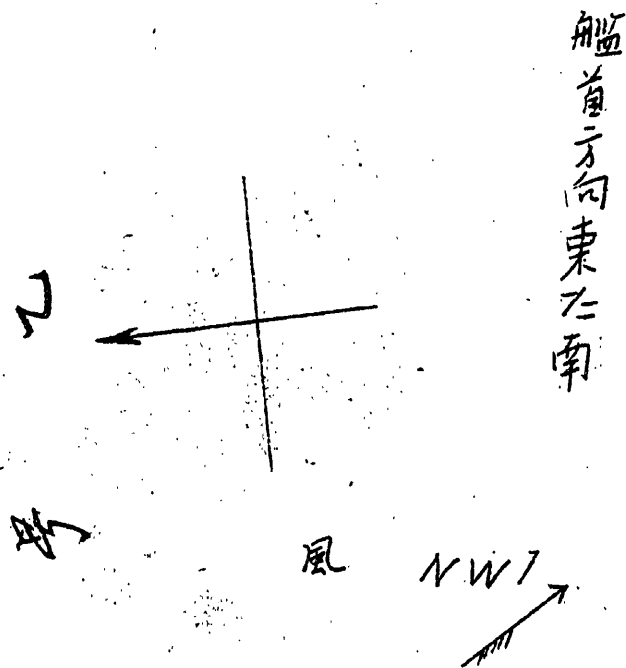
軍

水路軍機六五號卜同尺度

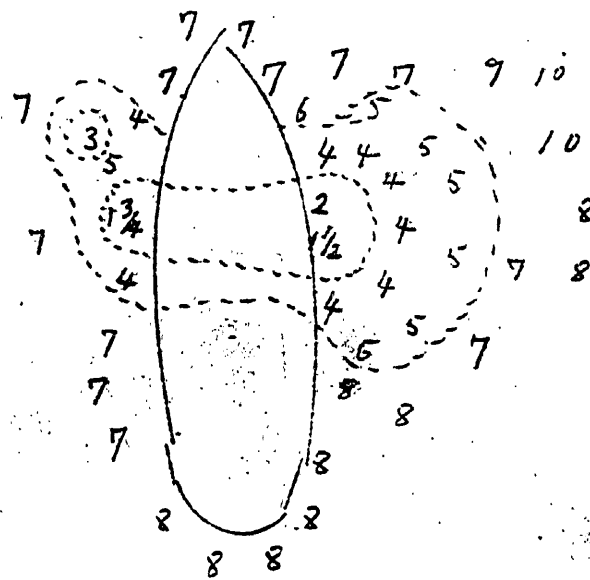


裏長山列島
WEST BAY

暗岩附近水深略圖



船首方向東に南



潮流 $\frac{1}{2}$ knots



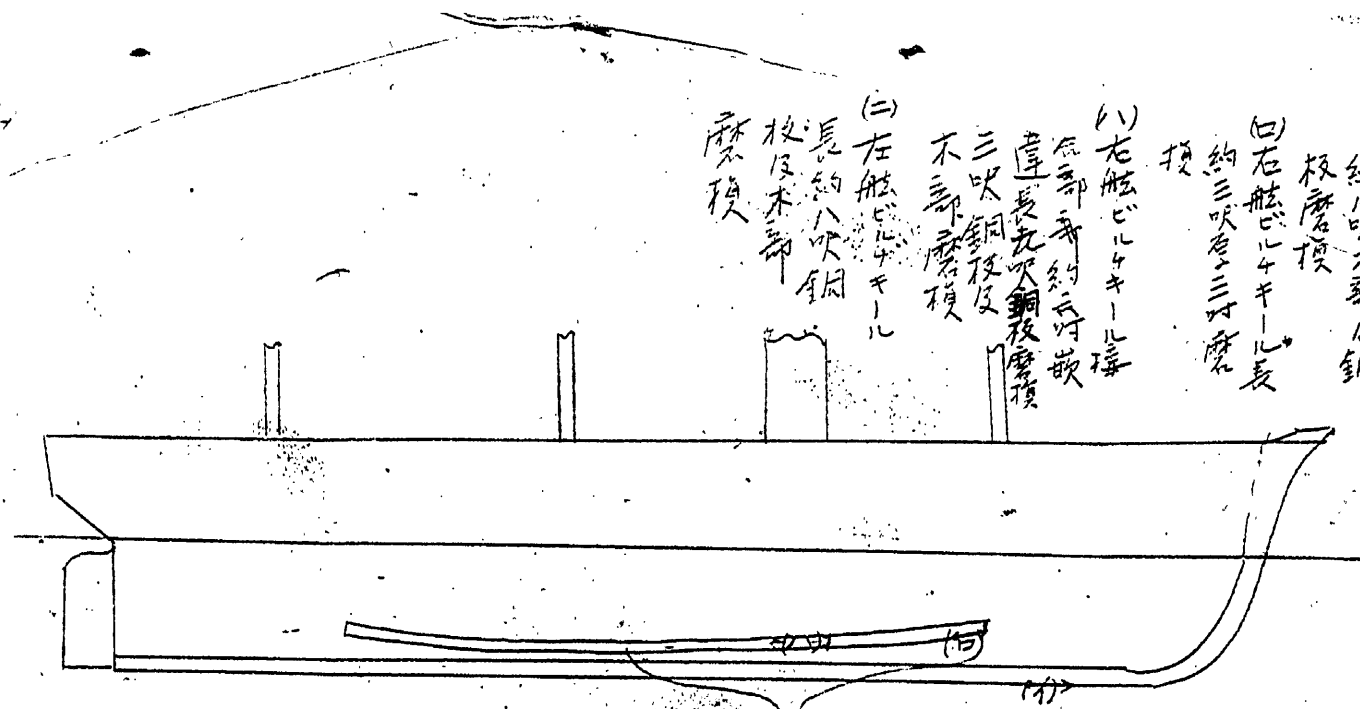
1225 1204

軍艦全副艦底損傷概圖

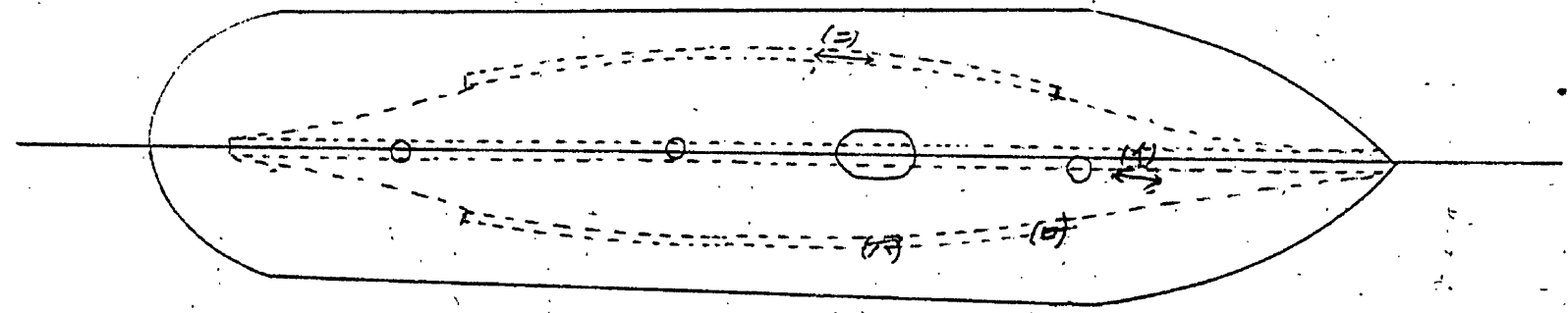
(イ) フォールズキール長
約八呎木部及銅
板磨損
右舷ビルクール長
約三呎を三吋磨
損

(ハ) 右舷ビルクール接
合部新約三吋嵌
違長九呎銅板磨損
三呎銅板及
木部磨損

(ニ) 左舷ビルクール
長約八呎銅
板及木部
磨損



左舷ビルクール
約三呎銅板
剥取箇所
詳示



内
号

1226 1225

海軍

海軍省海軍事務局決シ

供覧

軍務局

水路部

艦政本部

軍令部

天

第

部長

福田

閣

各

班

大員を

の昭和十年十一月三日

海軍省海軍事務局決シ

電

海

軍

海軍省海軍事務局決シ

土ノ丸

1227

皇則去八月三日 皇太后陛下 御前
海軍省海軍事務局 報告
少、檢査官、生、可、教、之、報、告、ス

天

11-25

抄

中

部

海

海軍省

供覧

電譯
五月廿七日
村松
佐領副官
海軍省副官

軍務局

答大本三六
夜十二時
現況報告書
提出

(次)

01110

1229

廿日前一〇三五
 電業 電了
 宣平正月廿七
 有到安
 作録到官宛
 進紀汰无其施、換換如何



久保田清

海軍

供覽

撫

軍務局

人事局

醫務局

無綫電部

軍令部

換

大臣

電海

青島

張振球

本日午前九時敵艦三隻
毒機三架

青島海軍工廠
修理部
修理中

第四部長

第二部長

會計課長

海

軍

工部



（正印）

11-7 11-29

1232

電報送達紙

局 着		局 發			名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後 前	付午後 後前	第 三 五 號	乙 友	<p>ト 又</p>	
コ ト	の 時 分	の 時 分	日	局		
<p>ワドフヨシカクシウ九ホ イカビンウカドシニ コウケヤヘキニ ワカハウイコゴクハ ヒシキクールキメツ シワウハツメラ一ハイゴ ムクヤウイシメセユ レシハハイルハ ニタノキルハモシ クハハケキ子ハ</p>					定 指	<p>意 注</p> <p>他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 シ直チ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ シテ取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>

1233

軍令部 醫務局 今達 艦政本部 送 軍務局 報 供電 五

局	着	局	局	局	局	氏所居人信受
取扱者	受信	付午後	第九五	第九五	局	氏所居人信受
七時五分	七時五分	六時	日	號	報	

ヨウドクキウリ
ヒカニテエシ
ウノミコトキムサ
ツキナシ

消毒機修理ニヨリ
送下見込取扱ハ支
上ノヤ
最長

注意	名氏所居人信受
他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモ、此由ヲ符 箋シ直チニ此ヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 其 人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	14

1234

供覽



送電局

達

人権局

軍令局

受信人住所氏名

著	局	第	局	報
受 信 者	信 午	信 午	第	局
時 分	時 分	日	號	報
字	分	日	號	報

至急

官報

控

兵艦上陸
一名溺死
死体見
逐隊司令

70

注意

他人宛に電報の配達を受けたる者は其由を付箋に直ちに之を配達したる電信局所へ送戻すべし決して其受取本人へ直接送附すべからず

著局日附印



明治三十九年四月印刷局製

1235

軍令部

軍務局

司憲

艦政本部

第四部

第三部

明治四十年十月二十六日

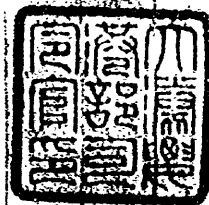
海軍大臣 勇 齋藤 實 俊

驅逐艦曙推進品觸底件

十月十九日 驅逐艦曙推進品觸底件
報告アリタ
艦政本部 第四部 驅逐隊司

第三部 艦政本部 第四部 驅逐隊司
報告アリタ
艦政本部 第四部 驅逐隊司

各班



Handwritten signature or mark on the right side of the page.

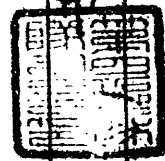
1236

127

驅逐隊第一三四號

明治四十年十月二十六日

第四驅逐隊司令 藤田定市



大湊西港 司令部 官大久保保喜造 殿

驅逐隊 右舷 推進器 觸底 毀損 一件

追放 第三第四聯合驅逐隊 航路 爲 出動 中 電 驅逐隊長 海軍

少佐 福永 寅次郎 艦長 職務 執行 命令 明治四十年十月

十九日 午前八時五十分 艦船 番号 自 有 的 春雨 晴 三 艦 四

ノ 順 序 二 解 纜 出 港 命 令 定 繫 地 點 爲 浮 標 離 離 離 離 離 離

三 番 艦 曙 直 二 解 纜 一 且 兩 舷 機 後 退 行 二 番 宜 俾 止 次

二 番 艦 春 雨 二 統 一 田 頭 二 機 機 前 進 微 速 次 二 田 頭 二 機

三 番 艦 其 時 前 方 格 三 浮 標 二 機 機 前 進 微 速 次 二 田 頭 二 機

離 離

海軍

決心し午前九時十分右舷機首を退微速前進し命し艦右側ヲ始メ
 此頃左舷機首前進微速次ヲ半速トシ後良力漸次減殺將テ前
 進力ニ移ラシムル所右舷推進器海底泥土ヲ搔キ上ル艦体ニ
 震動ヲ感シ直ニ両舷機首停止ス此時艦ハ微少ノ前進力ニ移リ
 アリテ推進器羽翼ハ自ラ離底ヲ觸底ノ位置ハ定點地五尋ノ界
 線ノ東方淺洲曙駆逐艦長職務執行者提出報告書附圖
 示セ如キ時午前九時ノ風向不足力零乃至一ノ右航海ヲ
 継続シ飯港后損所ヲ檢査シ前記報告書添附見取圖ノ如ク全
 艦右舷推進器ノ二羽翼ハ各其尖端ヲ屈曲毀損セリ
 右曙駆逐艦長職務執行者報告書添附報告ス
 進テ責任者タル海軍少佐富永寅次郎ノ行為ニ對テ是ノ故ヲ上
 其責ヲ免ルハ力ヲ盡スモノト認メ四驅機首一三三ノ字シノ海軍少佐
 (終)

明治十年十一月廿五日 大湊

曙驅逐艦長代理 富永寅次郎

某四駆逐隊司令 藤田定市殿

曙右舷折込 苦触底件

一 明治四十年十一月十九日 某四駆逐隊司令 藤田定市殿

内 港定 繁塔出 港青森 向 高時 擊馬 順序

(一) 白茅月 (二) 春雨 (三) 朧 (四) 曙

一 午前八時 幸五分 護信ニ 一 駆隊番 船ノ 順序 往 解纜 出

港ヲ ナス 本船ハ 其ニ 番船 たり

信旗ヲ 凌ルルヤ 本船ハ 解纜 一旦 兩舷 板後 退ヲ 行ヒ 通

停止次ニ番航春雨ニ繞テ回頭セシガ及ノ兩船概前進イ
 連次テ回頭ヲ試シシカ其時前方ニ於テ四番航船回頭ヲ試
 シツアリ且フ右船方當リ濟州丸碇泊シアリテ餘地狭
 猛本航回頭稍々困難ナリシ以テ四番航船ニ後従回頭
 本港スルニ決ス時ニ本航ハ船ノ内方ニ於テテテテ回頭シ
 アリシ以テ一旦後退離ノ航度ヲ代ルニ定メ兩船概
 ヲ停止ス

一 午前十時十五分右ノ決定ヲナシ右船概後退イ連テテ航後
 退ヲ始メシ頃ハ左船概前進イ連テテ航概前進イ
 連ヲナス航後退イ漸次減殺將サニ前進力ニ弱ラント
 スル際間右船概前進イ海底泥ニテテ搔テ上げ航概ニ

震動ヲ感ズ直キニ右舷機停止ヲナス停止ノ時舵ニ微

サノ所直方ニ移リアリテ自ラ船底ス

一 午前九時十二分左舷機前進ヲ連続テ右舷機前進ヲ連続

回頭出港ス

一 出港後右連十二海里ニテ航路運動ニ移ル午後一時

五十五分青森港ニ碇泊ス本日行動中船体概同共ニ

故障ヲ認メカリニガ板橋後接近器ヲ検査シ右舷接近器

亦一翅ノ尖端ニ於テ高度ノ自ラ屈曲ラナシ第二翅亦

尖端少量ノ屈曲ラナス第一翅尖端塗料剝脱ノ外

損害ナシ(附巻参照)

一 翌廿日青森ヨリ函館ニ至ル行動中船体震動精

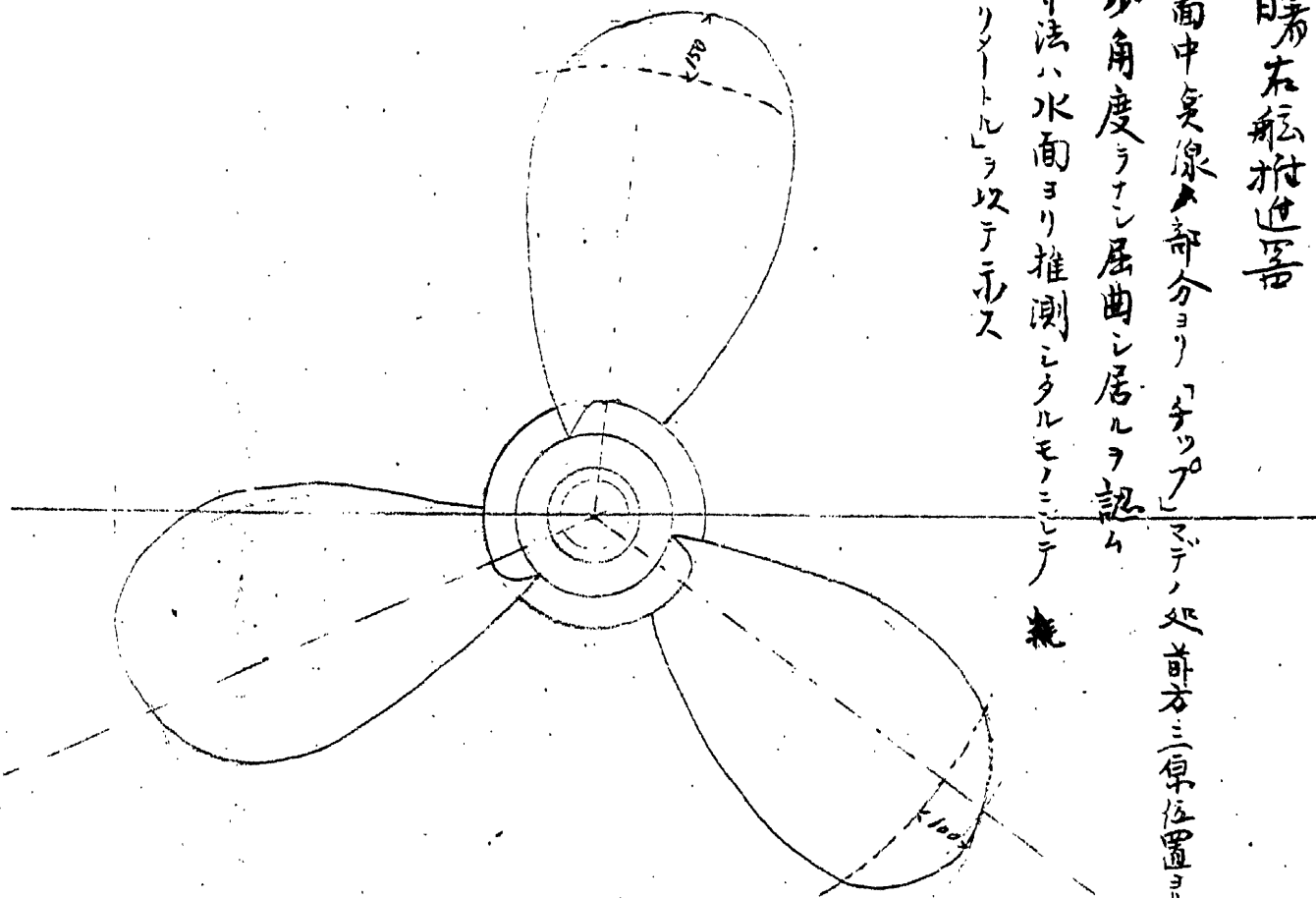
査せしが百七十五回轉(十之節)ニ於テ經震ハ市街ト異
ラザルニ徴カ、横動震加ハリタリ感ガ本航航海中速
力十五節ニ至ル行動ヲモシモ前記ノ外異状ヲ認メズ

右報告ス

(終)

暖右舷附世器

船中突線部分より「チップ」にて前方に位置ヨリ
少角度ヲナシ屈曲シ居ルヲ認ム
寸法ハ水面ヨリ推測シタルモノニシテ
「ソートル」ヲ以テス



水陸軍接点位置同尺度

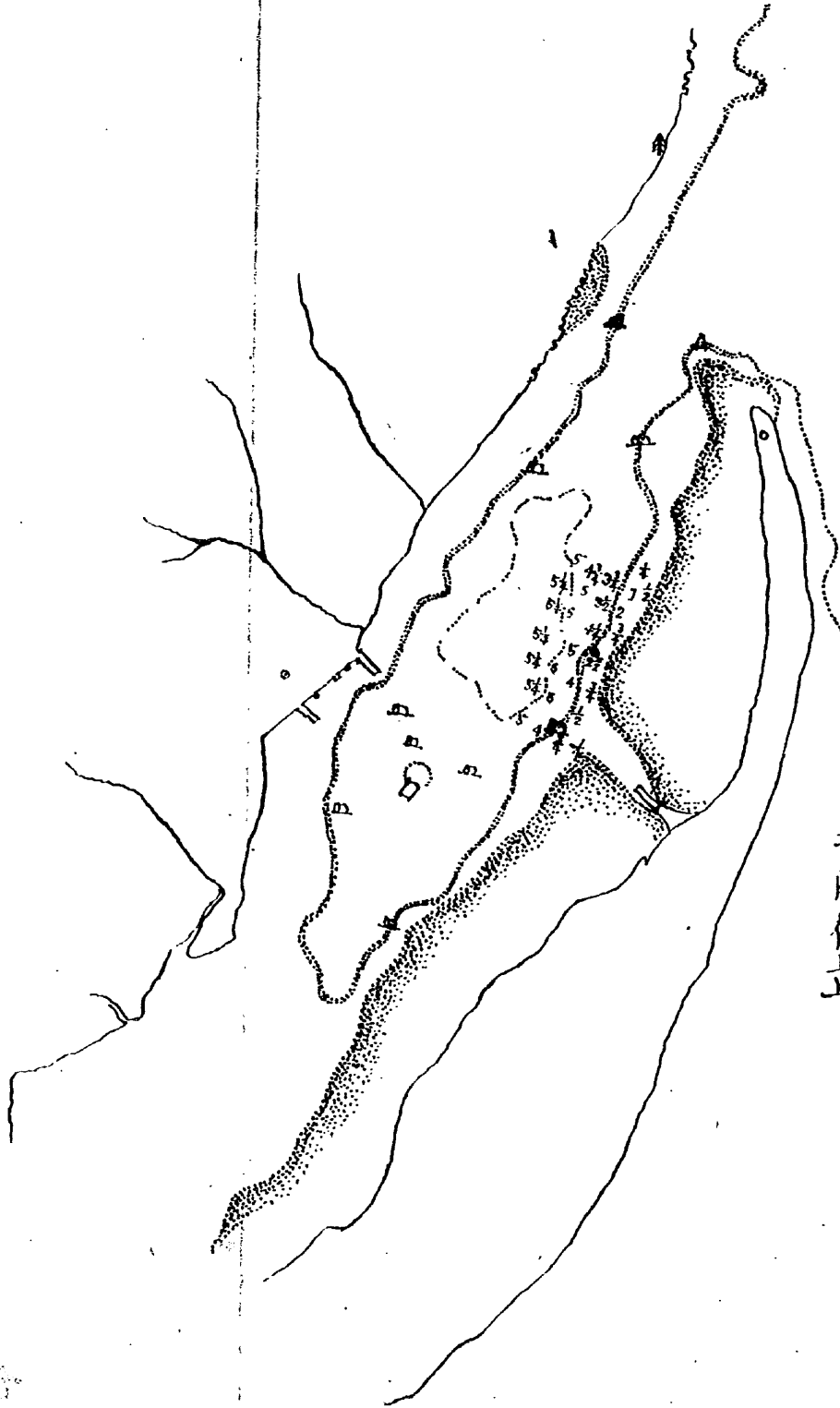
十月十九日

高潮時午前二時五分

風向不定

風力〇—一

朱点接触位置



~~軍令部~~

艦政本部

司法局

經理局

軍務局

海軍

軍令部 濟

第三部長



會計課長



因六徳山等泊地行
下、因ニ於テ擲害セシメテ大和船ノ乗員
ハ各名共異状ナカリテ警査官ヲ聞ク
幸テハ甚ト損害ナシ



海軍大臣

四十年十二月八日

東谷行長

海軍 行動簿 濟

東谷行

1245

電 報 送 達 紙

局	着	局	發	名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後 前	付 午後 前	第三 局	<div style="font-size: 2em; text-align: center;">受</div>	
受信 後	五時 五分	日	號		
<div style="font-size: 1.5em;"> 一 三 月 八 日 三 九 號 </div>			<div style="font-size: 1.5em;"> 三 九 號 </div>		
定 指				名氏所居人信受	
<div style="font-size: 1.2em;"> 一 三 月 八 日 三 九 號 </div>				<div style="font-size: 1.5em;"> 三 九 號 </div>	
事 記				注 意	
<div style="font-size: 1.2em;"> 一 三 月 八 日 三 九 號 </div>				他人へ宛タル電報ノ配達ラズクモ、此由ヲ符 號シ直チニ此レヲ配達シテ電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本ノ手渡シスベカラズ	

1286

撫

御書

切仰の旨に依りて安納の儀に付し

實活筆記

村松

四十年十二月廿五日午後五時五分

横須賀長子副官中々

有るたし西へ重推アリと云はれし所を通推ス

宗后今朝の早朝本崎沖へ歸り難し本

航路最上ノ標志ニ付テ右ノ道路ヲ由

ニ道ヲ横キラシトシテアリレニ三ノ標志ノ

今ノ上船ノ左舷ノ衝突シ破壊セシメシ付味

暗ハ船長ノ命ヲ奉シ遺難去勢向且現狀取

調ノ為メ長存沖ヨリ上記ノ事ハ向

海軍

軍務局

12-10

1247



此付中官、用済江兵部、帰港せん程り又遣
難志、此此為、見也

十百、下、用、乃、吾、不、尉

宗谷、能、長、

村、務

積、實

嘉、治、兩、船、出、帆、号、下、下、用、

七、し、十、九、八、和、船、ノ、乗、員、三、名、ト、モ、豆、ト、モ、

警、察、官、ヲ、同、リ、不、行、ハ、是、モ、

十二、月、日、 徳、山、 宗、谷、能、長

（五、日、商、店、納）

大臣 海軍

海軍

海軍次官 三月八日 入寺入尉

軍務局

本航路ニ出ラ 各帆棹ニ於テ右方ニ建シ

經理局

本航路ニ出ラ 各帆棹ニ於テ右方ニ建シ

司法局

本航路ニ出ラ 各帆棹ニ於テ右方ニ建シ

艦政本部

本航路ニ出ラ 各帆棹ニ於テ右方ニ建シ

軍令部

本航路ニ出ラ 各帆棹ニ於テ右方ニ建シ

海軍 三月八日 入寺入尉

濟次牙兵ニ帰港スル程リ又遭難去ニ死
傷去重ト見也

了

(五口商店稿)

1250

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受									
取扱者	受信	午後 前	午後 後	第	報 局	報 局	報 局								
	時	時	日	號											
コニモイワカリキヌ ナシ						指 定									
ハルハルハルハルハルハル						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">意 注</th> <th style="width: 50%;">名氏所居人信發</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ </td> <td style="vertical-align: top;"> 1 </td> </tr> </table>		意 注	名氏所居人信發	他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	1				
意 注	名氏所居人信發														
他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ	1														
ヤコトモトモトモトモトモト								<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記					
事 記															
カキカキカキカキカキ										<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記			
事 記															
ハルハルハルハルハルハル												<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記	
事 記															
カキカキカキカキカキ						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記							
事 記															
ハルハルハルハルハルハル								<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記					
事 記															
カキカキカキカキカキ						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>				事 記					
事 記															
ハルハルハルハルハルハル								<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記					
事 記															
カキカキカキカキカキ						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記							
事 記															
ハルハルハルハルハルハル						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">事 記</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> </tr> </table>		事 記							
事 記															

1252

浦

海

大軍官房

海軍

慶次 十月十日

三十一

大層了

大慶要港新分令及

宗谷望樓ヨリ左ノ報告アリ

六日未明暴風、為ノ小樽丸

(有之千六噸) 船体、自由リ失也

宗谷

船員年輩 船体大

破

軍務局

軍令部

各


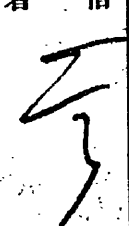
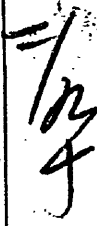

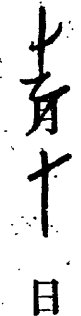


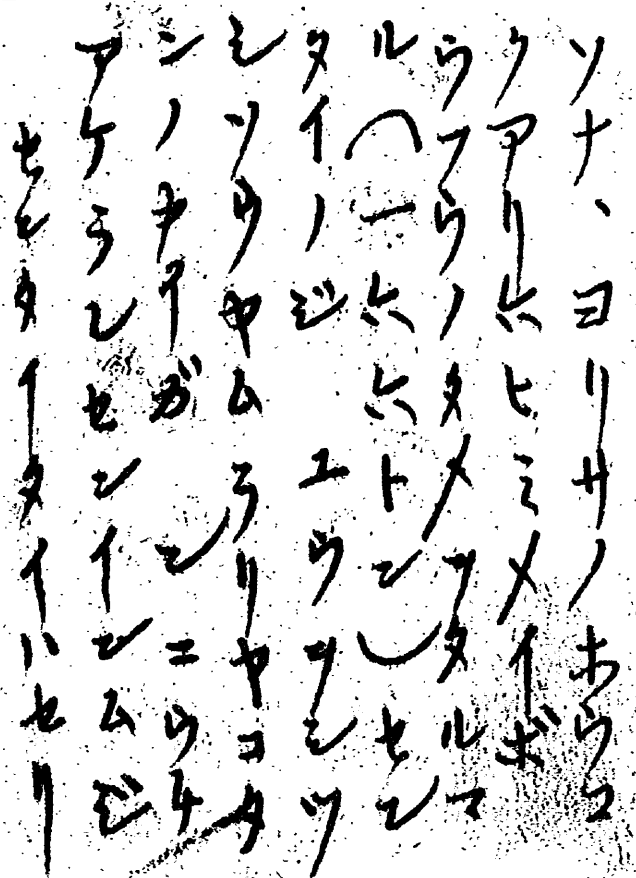

田中

田中

田中

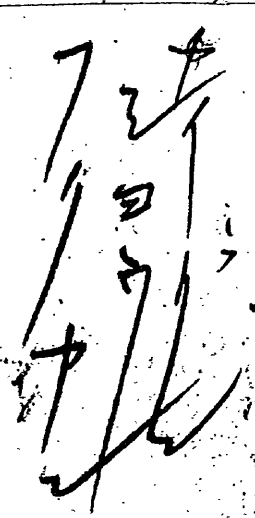
田中

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	付午前	第七五	局	報	
	午前	後	前	日	號	報	
							
					定 指		
					事 記		
					意 注	名氏所居人信受	
					他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスヘカラス		

1254

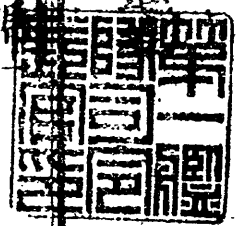
電報送達紙

局 着		局 發		名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後 7時4分	付午後 5時5分	第 七 號	サ チ 申 局	
		字	月 十 日	報	
本日發送ノ紙鎮職券ニ 七九ノ五附箋ハ誤リニ付 カレトシ一併書懸ハ後ト 送 十二月十日佐鎮副官				定指	名氏所居人信受
				事記	他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 其レヲ其處本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

1255

軍務局

十二月十五日



幕僚

十二月十五日

供覽

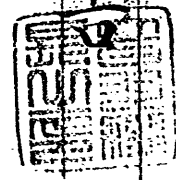


四〇三

明治四十年十二月十日於品海

音羽

音羽艦長上村経十



軍務局

局員

第一艦隊司令長官男爵有馬新一殿

遭難船救助件

本艦吳軍港より東京湾へ向う相模灘航行中明治四十年

十二月十日午前七時十分城ヶ嶋燈臺南西約十哩ニ救難信

号ヲ掲ゲテ漂泊スルアリ也型帆船一艘ヲ発見シタルヲ以テ午前

八時其帆上ニ透寄リ見シ帆船機ヲ破損シ標纜ヲ途ニ失

シ加藤艦内ニ浸水シツク有リタリトシ仍之ニ曳航救助シ

テ先ニ其ノ船内ニ乗リテ救助シテ除クニ曳航ヲ請ヒタル

甲隊員五ノ人アリ

軍令部

及

激浪ノタメ間モナリ曳索兩ナカラ切斷シテ午前八時四十五分更
 ニ曳航ヲ試シテ再ニ該船接近シタモ夜未南西強風
 アリテ波浪高ク曳索ヲ取ル至難ノ業ニシテ且ツ之レヲ曳續ルノ
 不可能ナルヲ認メ船長以下全員八名ヲ本艦ニ收容シ午前九時
 五十分船長承諾上之レヲ放棄シ東京灣ニ向ヒテ遭難船ト
 和歌山縣南牟婁郡鷓殿大野安次郎所有ノ帆船保惠
 丸ニシテ百貳拾噸余ノカクナシ型帆船ナリ船長寺尾善太郎外
 乗員七名ニシテ木材及石材ヲ搭載シ明治四十年十一月二十六日東
 京ニ向テ大阪港ヲ発シ的矢港ニ寄港シ十二月七日全地発相摸
 灘航行中全月十日午前四時廿五至リ南西強風起リ波浪漸ク
 激烈トシ當リ舵柄頭ヲ破損シ倉急舵ヲ使用シタルモ更ニ其効
 ナリ全ク操縦ノ途ヲ失シ救助ヲ求メタルモノナリ船長ノ語ル處ニヨ
 リ該船船体ニ三層アリテ内板堅固ナリモノトシハ破碎沈没ノ

虞をト云フ

想フニ偏南ノ信風連吹ニ潮流ノ関係ヲ見ルモ談船ノ相撲
海濱ニ漂着スル者若シ風波阻レハ遭難所附近ニ漂泊シ
ツアル可シ

追テ海軍大臣横須賀鎮守府司令長官ハ無線電

信ヲ以テ概況及急報置候

右報告ス

(終)

海軍